

『社会を明るくする運動』
作文コンテスト 最優秀賞作品

「おはよう。」という一言だけで

6年

私は、6年生になってから、あいさつを意識して生活するようになりました。「おはよう。」「おやすみ。」「ただいま。」「おかえり。」そんな一言だけで、私の心は、一日の始まり、一日の終わりというものを感ずることができ、私に、
「おはよう。」
と声をかけると、
「おはよう。」
と返ってきて、その一言だけで気持ちが、ホッとするような、スッキリするような感覚になります。こんな少しのことでも、続けるにあいさつが習慣になってきました。家族や友だち、近所の方などあいさつのはんいを広げるとそれが日常生活の一部となっていくと思います。そう考えると、私はあいさつだけで気持ちが行動が変わってくると思います。



「おはよう。」
と家族にあいさつをし、何気なくテレビをつけて、いつものニュース番組を見ていると、一つのニュースが目に入りました。

「大阪市西成区で、下校中の小学生7人がはねられる事件がありました。命に別状はありませんでした。容疑者は、全てがいやになり、人を殺そうとした罪を認めたそうです。」

と聞いていました。まずは、その小学生が無事でよかったけど、正直、その犯人の本音を聞いた時、腹が立ちました。罪もない子どもに、自分の怒りをおさめるために、かけがえのない7人の命をうばおうとするなんて、すごくくやし、それと同時にむねが苦しいような感じがしました。この作文を書きながら、どうしたら、このような人たちに寄りそえるんだらうと考えました。

気になって、タブレットを使って調べてみました。そこで、私は、更生保護女性会を初めて知りました。更生保護女性会員は青少年健全育成の活動や子育て支援などたくさん活動をしていて、なんと全国で約13万人の会員がいるそうです。更生保護女性会員がもっと増えたら、なやんでいた、困っていたりする人に寄りそうことができるのではないかと思います。そして、一回罪を犯した人

でも、心を入れかえてくれるかもしれないと思っています。

私は、子どもだから関係ないんじゃないかと、子どもだからこそ、何ができるかを考えて過ごしたいと思っています。私は、やっぱりあいさつを続けます。「おはよう。」「おやすみ。」「ただいま。」「おかえり。」その一言で何かが変わると思っています。あいさつを続けることが、罪を犯してしまいうる人になる人の心をきくと入れかえてくれると信じたいです。私は、しよる来、小学校の先生になりたいと思っています。思いうる子やあいさつを大切にしてくる子が増えるようにがんばりたいです。そして、更生保護女性会員というボランティアに参加する人が増えれば、だれもが安心して暮らせる社会が、今よりもっと広がっていくと思います。そんな人が増えることを願って、今、私に何ができるかを考えながら、これからも生きていきたいと思っています。

兵庫県読書感想文コンクールに、本校からもたくさんさんの児童が応募しました。その作品の中から、賞に選ばれた6名を紹介いたします。

秀作 4年
入選 1年
2年
3年
5年
6年



みんなの世界

4年

私は、前に世界の学校をしようかしている本を読んだことがありました。日本の学校とちがっていることがたくさんあって、すぐくおもしろかった。図書館でたよるな本をさがして、いろいろの国のことが知れそうだなと思って、この本を選びました。読んでみると、私の知らないことがたくさんあつておもしろかったです。

この本は、世界の伝とう的な食事や文化がたくさんしよるかいしてあります。その中でおもしろかったことや不思議に思ったことがたくさんありました。特に印しよるに残ったことが4つありました。

1つ目は、ペットのことです。インドでは、ネズミは頭がよくて清けつたと考えられていて、せいなる動物としてたくさんの人にかわ

れているそうです。日本では、モルモットやハムスターはペットとしてかわれていてかわいいと思います。でも、ネズミはドブや屋根うらのきたないところにいる、ふけつなイメージがあつて、いやがられるそんざいだと思っています。だから、インドでペットとしてかわれるのは不思議だと思いました。

2つ目は、学校の仕方です。コロンビアのロスピノでは、学校に行くために川の深い谷をケープルワイヤでわたらなければならなかつたり、中国のチャンジワンでは、急なけに木のはしごだけをかけてよじ登らなければならなかつたりするそうです。私の家から学校まで2キロぐらいい歩かないといけないうで、つかれるからいい歩かないといけないうです。でも、ロスピノやチャンジワンにくらべたら楽な方だし、整びされた道で通えるのもんくを言つたらだめだと思いました。

3つ目は、コンピュータ付きのせい服です。ブラジルのヴィクトリア・デ・コンクウイスタ市では、せい服のシャツにコンピュータのチップが付いていて、学校につくとスキャンされて登校したことが分かるそうです。何でも、こうしよると思つたのかをお母さんに聞いてみると、「ブラジルはち安が悪いからばうはんのためじやない？」と言つていました。本当はどういう理由なのかを知りたいと思いました。

4つ目は、世界一大きな学校です。インドのラクノーには、生徒の数が5万5千人、教室は千以上というすぐく大きな学校があるそうです。私の学校は、生徒数が少ないので、ほかの学年の子のことも知つていて、5万5千人もいたら同級生も覚える自信がないなと思いました。

日本で暮らしているとそれがふつうだと思つて、いろいろの国ではしつれいななつたりすることがあることも分かりました。この本を読んで、日本と外国でいるんなちがいがあつて、よく分かりました。これから、そのちがいをみとめ合うことがすくく大切だと思いました。日本のことも他の国のことも、もっと知りたくなりました。

変化を受け止めるには

6年

私は、日常の変化があまり好きではありません。主人公ピーターに起つた変化にどう対応していくか帯を読んで気になったので、この本を選びました。

「ピーターはどうやって、変化を受け止めて、前を向いて進んで行けたのだらう。」
「私もピーターのように変化を受け止められるだらうか。」

そんなことがとても気になってしまひ、早く読みたくてうずうずしました。
ピーターの一番の変化は親友トミーの引つこしだと思ひます。そして、私がこの本を読んで一番印象に残つた所でもあります。ピーターはトミーと「生き物発見ノート」を書いたり、生き物をいっしよに探したりして、いまだに、ピーターの日常にトミーがいるのは、当たり前で、私も保育園のころから習つて、英語の先生が私の日常にいて、私に英語を教えてくれるのは当たり前で、私に英語の日常は、ずっと続くものだと思ひていました。ピーターがトミーの引つこしを知つたとき、のうに、私も先生がオーストラリアに帰国するのを知つたとき、いろいろな感情でぐちゃぐちゃになりました。突然のこととてびつくりしたり、もう会えなくなつてしまひ、こに悲しくなつたりしました。ピーターは、トミーにいやな態度をとりました。私は、先生の前で泣いてしまひ、笑顔で別れることができませんでした。私は、後から

「何で泣いちやつたんだらう。」

「笑顔で別れたかつたな。」

と何度も思ひました。ピーターもいやな態度をとつたことを私と同じように悔やんでいました。ピーターの後悔している所を読んで、

「私もあの日をやり直したい。」
ピーターは、今までかくしていたことを全部しゃべつたこととて引つこしを受け入れて、前に進んでいこうと思つたのではないかと思ひます。ここで、トミーの気持ちが分かつたんだと思ひます。私は、もう先生には会えな

いけど、この本と経験を活かして、相手のことを考えて行動しよると思ひました。

私は、先生が帰国したときは、あまり家族や友だちに相談しませんでした。ピーターはトミーの引つこしをトミーと話して受け止めた方が、おたがい先に感情が表情や行動に出てしまひ、相手を傷つてたり、心配させたりしたくないのです。どんなに自分にとつて大きな変化が起きて、自分でかえこまらずに、周りの人に相談できるのだと改めて分かりました。このことに気づけた私は、ピーターのように変化を受け止めることができると思ひます。